

令和7年度事業報告書

1 環境保全に関する交流推進事業

(1) 北東アジア地域自治体連合環境分科委員会の推進

北東アジア地域自治体連合（NEAR）環境分科委員会は、日本、中国、韓国、モンゴル及びロシアの自治体間の、環境保全に関する情報共有や個別プロジェクトの円滑な実施等を図ることにより、この地域の環境保全対策を推進することを目的に設置されており、富山県はコーディネート自治体に出選されている。

（公財）環日本海環境協力センター（以下「NPEC」という。）は、北東アジア地域の各国・地域における環境保全の相互対話及び交流の促進を目的として、富山県からその事務局業務を受託している。同委員会の活動を推進するため、参加自治体を対象に7つの個別プロジェクトの実施状況、次年度のプロジェクトの提案等について調査を実施するとともに、NEAR 第17回環境分科委員会を開催した。

開催日 : 令和8年1月28日

開催方法 : オンライン形式

参加自治体 : 日本、韓国及びロシアの3か国の10自治体

内容 : 次期コーディネート自治体の選出、令和7年個別プロジェクトの活動報告、令和8年個別プロジェクトの提案・決定、環境教育に係る取組状況等に関する意見・情報交換

(2) 海洋環境保全パートナーシップの形成

NPECが環日本海地域等における国際環境協力の中核拠点となることを目指して、「産」、「学」、「官」それぞれの分野の機関、団体の専門家等とのパートナーシップを形成するため、水産海洋学会等の関係学会に参加するとともに、関係機関等の情報収集を行った。

2 環境保全に関する調査研究事業

(1) 漂着物の発生抑制に関する調査・啓発事業

漂着物等の発生抑制対策の必要性を再認識してもらうとともに、その実践を促すことを目的として、富山県から業務を受託し、北東アジア地域の海を共有する自治体、市民等と連携して実施した。

① 市民参加による漂着物の実態把握（NEAR環境分科委員会の個別プロジェクトとして実施）

海辺の漂着物調査（マイクロプラスチック調査を含む。）を実施した。

調査時期 : 秋季

調査回数 : 各海岸1回

参加自治体 : 日本、韓国及びロシアの3か国の9自治体、23海岸

② 漂着物アート制作等の普及啓発活動（NEAR環境分科委員会の個別プロジェクトとして実施）

漂着物を利用したアート作品の制作・展示を実施するとともに、漂着物に関するパネル展示など、地域の自治体、団体等と連携した取組みを進めた。

- ・ 漂着物アート作品の制作体験

実施日 : [漂着物の収集] 令和7年6月6日、[アート作品の制作] 6月17日

場所 : [漂着物の収集] 氷見市松田江浜、[アート作品の制作] 氷見市立窪小学校体育館

参加者 : 窪小学校4年生56名

- ・ アート作品の展示（上記で制作した作品の展示）

期間 : 令和7年6月21日～7月6日

場所 : 氷見市海浜植物園 2階ワークショップルーム

作品数 : 10作品

(2) 漂着プラごみの発生源調査事業

漂着ごみの発生抑制対策や効果的・効率的な回収を推進し、海洋環境保全に資することを目的に、鹿児島大学等と連携して、市街地におけるごみの発生源等に関する調査及び滞留時間調査を実施した。また、ペットボトルごみを収集し、カルボニルインデックスを用いた経過時間推定手法について検討した。

併せて、ごみが多く漂着する富山県射水市六渡寺海岸において、ウェブカメラ、空中ドローン等を用いて、漂着ごみを広域的、連続的に撮影し、AIによるごみ体積の推計と変動特性に関する調査を行った。

ごみ発生源調査	調査時期：令和7年4月9日、7月4日、7月16日、9月24日、10月17日 調査場所：高岡市市街地
ごみ滞留時間調査	調査時期：令和7年10月25日、令和8年3月17日 調査場所：高岡市笹川
ペットボトル収集調査	調査時期：令和7年4月9日、10月25日、令和8年3月17日 調査場所：射水市六渡寺海岸、高岡市笹川、城光寺橋付近
固定ウェブカメラ撮影	調査時期：周年 調査場所：射水市六渡寺海岸
空中ドローン撮影	調査時期：令和7年4月8日、11月12日、12月19日、令和8年2月26日 調査場所：射水市六渡寺海岸

(3) 観察会を通じた市民参加型生物情報収集システムの検討事業

県民に海洋環境・生物多様性の保全に関する意識啓発を図り、海の学びを促進するとともに、水生生物の分布等に関する長期的なデータ蓄積し、様々な研究等への活用を図るため、船の科学館の「海の学びミュージアムサポート」の助成を受けて制作した市民参加型生物情報システム（観察会で得られる生物の情報（観察日時・場所、生物種、分布）を登録・表示するウェブコンテンツ）を活用し、いきもの観察会を実施するとともに、パネル・リーフレットを作成し、システムの普及を図った。

- ・ 常願寺川のいきもの観察会
実施日：令和7年7月5日
実施場所：富山市常願寺川河口今川橋付近
参加者：小学生とその保護者47名
内容：常願寺川に生息する生き物調査
- ・ 富山湾海岸いきもの観察会
実施日：令和7年7月12日
実施場所：高岡市雨晴海岸義経岩周辺
参加者：小学生とその保護者49名
内容：富山湾の海岸に生息する生き物調査

(4) SDGs14.1.1a 地域指標開発事業

SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」の個別ターゲットである沿岸富栄養化の削減効果の定量的な評価に貢献するため、NOWPAP海域を対象に地域指標を開発するとともに、指標による目標の達成度の報告を支援するプロトタイプシステムを開発し、世界自然保全モニタリングセンターと連携し、世界各国におけるSDGs14.1.1aの地域指標を公開するデータベースを構築した。

(5) 七尾湾西湾の藻場生態系調査事業

七尾湾のアマモ場再生事業に役立つことを目的に、利用形態の異なる3海域（和倉温泉地区（観光利用）、川尻地区（藻場再生地区）、瀬嵐地区（カキ養殖地区））において、環境DNAを用いた魚類調査を行った。併せて、重要水産資源となっているマナモコに関して環境DNAでの検出が可能な確認するため、棘皮動物を対象とした網羅的解析も行った。

調査時期：夏季、秋季、冬季
調査回数：4回（冬季は2回実施）
調査場所：七尾湾西湾
分析項目：環境DNA 魚類網羅的分析及び棘皮動物網羅的分析

3 環境保全に関する施策支援事業

(1) 広報・普及啓発

海洋環境保全意識のより一層の醸成を図ることを目的に、以下の広報・普及啓発を行った。

- ① ウェブページ等による情報発信
NPECの活動状況や環境情報について、ウェブページ及びメールマガジンで発信を行った。
- ② イベント等における情報発信
次のイベントに参加し、NPECの活動状況を広報した。

《主な内容》

No.	イベント等名称	実施日	実施場所等
1	とやま環境フェア2025	令和7年10月11日、12日	高岡テクノドーム（高岡市）
2	滑川市環境フェア2025	令和7年10月18日	中滑川複合施設メリカ（滑川市）

(2) 中国遼寧省とのプラスチック製品の使用削減、リサイクル推進協力事業

プラスチックごみ削減を推進するため、富山県から業務を受託し、遼寧省の職員が富山県を訪問するための連絡調整を行うとともに、プラスチックごみの店頭回収及び小学生を対象とした環境学習プログラムの授業の見学の実施、協力事業の具体的な内容を検討する会議の運営等を行った。富山県と遼寧省が双方の強みを生かし、市民の行動変革を促す「環境教育」の分野での協力事業を実施することとして合意した。

- ・ 情報交換会、検討会
開催日：令和7年6月17日～19日（現地見学を含む。）
開催場所：タワー111 会議室2 他
出席者：遼寧省 李生態環境庁海洋生態環境処長 他1名
富山県 九澤生活環境文化部長・環境政策課長 他
内容：自治体によるプラスチックの使用削減やリサイクルの取り組み事例の紹介
プラスチックリサイクルに取り組む事業所等の見学
- ・ 実務者会議
開催日：令和7年9月24日、25日（現地見学を含む。）
開催場所：タワー111 会議室2
出席者：遼寧省 黄生態環境庁生態環境保護監督官 他1名
富山県 九澤生活環境文化部長・環境政策課長 他
内容：県内小学校での環境教育現場、リサイクルに取り組む小売店の見学
今後の協力事業内容についての協議

(3) 北東アジア地域生物季節調査推進事業（NEAR 環境分科委員会の個別プロジェクトとして実施）

気候変動の影響を身近に感じることができる「生物季節調査」（サクラの開花、トンボの初見等）を富山県と連携して推進し、北東アジア地域の各自治体での調査・学習会の実施を通じて、脱炭素社会への移行に係る意識醸成を図った。

- ・ 生物季節調査・学習会の実施
実施自治体：富山県
- ・ 富山県内における調査・学習会の実施
実施日：令和7年9月13日
参加者：富山県自然解説員（ナチュラリスト）及びジュニアナチュラリスト等 24名
内容：地球温暖化・気候変動の影響及び対策、調査方法等の説明、調査体験

(4) 北東アジア地域青少年環境サミット開催事業（NEAR 環境分科委員会の個別プロジェクトとして実施）

持続可能な社会づくりに向けてグローバルな視点で地域の環境保全に取り組む人材の育成を図ることを目的として、富山県から業務を受託し、北東アジア地域の青少年を対象に、環境問題に関する講演、活動発表、意見交換等を実施する環境サミットを開催した。

実施日：令和7年8月6日、7日

実施方法：オンライン形式

テーマ：「環境保全活動で築く持続可能な未来」

参加者：北東アジア地域の中高生24名（日本、中国及びロシアの3か国の5自治体）
（日本：2名、中国：6名、ロシア：16名）

内容：環境保全活動の発表、文化交流、自治体による環境教育の取組みの紹介、今後取り組むべき環境保全活動について考えるワークショップ 他

(5) 北東アジア地域環境ポスター展推進事業（NEAR 環境分科委員会の個別プロジェクトとして実施）

北東アジア地域の各自治体が次代を担う子供たちから「環境の保全」をテーマとしたポスターを募集し、優秀作品を一堂に展示することにより、北東アジア地域における市民の環境保全意識を一層高めることを目的として実施した。

開催日：令和7年6月5日

開催場所：韓国慶尚南道 金海市 大東生態体育公園 一帯

内容：日本、中国、韓国、ロシア及びキルギスの5か国の12自治体からの優秀作品75点を展示

4 NOWPAP推進事業

日本、中国、韓国及びロシアは、日本海及び黄海の海洋環境保全を目的として、北西太平洋地域海行動計画（以下「Northwest Pacific Action Plan」（NOWPAP）という。）に基づき各種事業に取り組んでいる。この事業活動の拠点として、各国に地域活動センター（RAC）が指定されており、日本ではNPECが特殊モニタリング・沿岸環境評価地域活動センター（CEARAC）に指定されている。

令和4年2月からの国際的な政情不安の中で、同年3月に開催が予定されていた第24回NOWPAP政府間会合が延期となったため、令和4年以降の活動計画及び予算が未承認の状況となっている。

NOWPAPの活動を継続するため、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて残った、令和2年から令和3年までの予算を用いて、執行期間を令和6年6月まで延長し、CEARACウェブページのリニューアル、ブルーカーボンケーススタディのリーフレットの作成等を行ってきた。

NOWPAPが本格的に再開された際に、CEARACの事業を円滑に再開できるよう、環境省と富山県からの支援を得て、以下の事業を実施した。

(1) 地域活動センター（RAC）事業 NOWPAP 活動推進費

① 日本海等の環境影響調査

- ・ NOWPAP富栄養化状況評価手順書による予備評価の実施

富栄養化の兆候が見られる海域を抽出することを目的とした予備的な評価を継続的に実施し、NOWPAP海域の富栄養化状況評価手法を更に改善するため、人工衛星データからクロロフィルa濃度を推定したほか、欧州宇宙機関の海色センサ「OLCI」を含む、複数の海色センサを統合した長期時系列データセット「ESA CCI CHL（1997年のSeaWiFSから継続）」を新たに入手した。併せて環日本海海洋環境ウォッチシステムの対象海域を東及び南方向へ拡大するとともに、過去に遡り、データを再取得・整備した。

- ・ 富山湾海域モニタリング調査

富山湾の状況を可視化するため、上記予備評価のために収集した富山湾の現場測定データを継続して収集した。また既存の透明度推定手法の富山湾への適用及びその評価、並びにNOWPAP海域への展開に向けた検討を行った。

- ・ リモートセンシングを活用した藻場マッピング

藻場の状況を可視化するための藻場マッピングツールについて、空中ドローンや小型音響デバイスを用いた藻場マッピング手法の精度向上を引き続き行うとともに、藻場マッピングの自動化について検討を行った。

- ・ 海草藻場におけるブルーカーボン変化量の推計

七尾湾において藻場の保全を推進するため、近年報告報告される夏季のアマモ場の枯死に注目し、ブルーカーボンの変化量の推計を行うケーススタディを継続実施した。

- ・ 環日本海海洋環境検討委員会の開催

赤潮／有害藻類の異常繁殖（HAB）をはじめ、リモートセンシング、富栄養化及び生物多様性の環日本海地域の海洋環境に係る課題、今後の活動の進め方等について助言を得るため、国内の専門家による環日本海海洋環境検討委員会を開催した。

開催日：令和8年1月13日

開催方式：オンラインと対面のハイブリッド形式

② 環日本海海洋環境ウオッチ推進費

環日本海海洋環境を可視化するために環境省が設置した「環日本海海洋環境ウオッチシステム」をクラウド環境で運用し、NOWPAP海域における富栄養化状況を情報発信したほか、システムの維持管理を行った。

(2) 地域活動センター（RAC）の運営

① 会議費

CEARACの活動に関連する国際機関等の会議に出席し、CEARACの活動を紹介するとともに今後の連携等について意見交換した。

- ・ 国際海洋リモートセンシング会議（PORSEC）

開催日：令和7年4月19日～21日

開催場所：台湾 基隆

参加者：1名

- ・ Geo for Good Summit 2025

開催日：令和7年9月8日～11日

開催場所：シンガポール

参加者：1名

- ・ 第17回アジア・オセアニア地域地球観測に関する政府間会合（AO GEO）シンポジウム

開催日：令和7年10月15日～17日

開催場所：タイ バンコク

参加者：1名

- ・ 第16回国連統計委員会専門家（IAEG-SDGs）会合

開催日：令和7年11月5日～7日

開催場所：北九州

参加者：1名

- ・ 北太平洋海洋科学機関（PICES）年次会合2025

開催日：令和7年11月8日～14日

開催場所：横浜

参加者：1名

- ・ 第13回アジア海色ワークショップ（AWOC）/第22回日韓海色ワークショップ（KJWOC）

開催日：令和7年11月18日～21日

開催場所：韓国 釜山

参加者：1名

- ・ REMARCO Regional Meeting on the Use of Satellite Imaging Methods to Monitor Chlorophyll-a

開催日：令和8年2月2日～6日

開催場所：ウルグアイ モンテビデオ

参加者：1名

② 調査費

NOWPAPに基づく各種取組みの推進のため、CEARAC 事業に関連する情報の収集・整理を行った。

ア 富栄養化調査

NOWPAP地域の富栄養化状況評価を推進することを目的に、本活動に関する国内外の情報・資料を収集・整理した。

イ 海洋生物多様性調査

CEARACが実施する海洋生物多様性保全のための活動を推進することを目的に、本活動に関する国内外の情報・資料を収集・整理した。また、行政モニタリングへの環境DNAの導入状況や、環境DNA/RNAに関する最新の研究情報を収集した。

ウ HAB調査

赤潮/HABに関する活動を推進することを目的に、本活動に関する国内外の情報・資料を収集・整理した。

エ リモートセンシング調査

リモートセンシングに関する活動を推進することを目的に、本活動に関する国内外の情報・資料を収集・整理した。

オ 海洋ごみ調査

プラスチック汚染に関する国際条約策定に向けた進捗状況について、引き続き情報の収集を行った。

(3) 令和6年能登半島地震に関わる能登半島・富山湾の藻場調査

令和6年能登半島地震による沿岸環境への影響を把握するため、Planet Lab 社（米国）の高解像（50cm 解像度）の SkySat 画像を入手し、地震発生直後の能登半島北西部の沿岸における海岸線の変化を可視化した。海底地形が大きく変化した輪島市皆月湾において、藻場等の状況を観測するため、小型の音響計測機器や空中ドローン、ラジコンボートを活用した簡便な調査方法の検討及び調査機材の開発を行うとともに、データの取得を試みた。

(4) RCU 連携費

NOWPAP地域調整部（RCU）富山事務所と連携・情報共有を図った。

令和 7 年度事業報告の附属明細書

令和 7 年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第 3 項に規定する附属明細書は作成していない。